



“タンスノコヤシ” に循環を！ 自由に交換「服もってけ・おいてけ市」

■活動時期 → 不定期

■活動場所 → 不定期

■主な活動メンバー → サークルメンバー
【ホームページ】

http://www.geocities.jp/kochi_eswiq/

（取り組み内容）

◆「服もってけ・おいてけ市」の開催

買ったけど似合わなかった、流行が過ぎた…いろんな理由で増えていく「タンスノコヤシ」。でも、そんな自分には要らないと思っている服でも他の人なら喜ぶかもしれない。いらなくなったものでも、それを無料でプレゼントすれば、誰かが大切に使うってくれるかもしれない。そんな思いから自由な交換会「服もってけおいてけ市」をスタート。

捨てれば「ごみ」、分ければ「資源」
でも誰かに渡せば、また「もの」となる。

【開催例】

会場：高知大学 学生会館 2 階

日時：10 時～18 時で3日間

ポイント：知り合いや卒業する先輩のいらない服を
もらっておいてから開催

成果：約 250 人の来場者
約 100kg の服を収集・循環

※無料でもらって帰れるとあり、大変喜んでいただいた。また、服の持ち込みもたくさんあり、大量の服を手にすることができた。

◆リメイクの実践

集まった服の中で、そのままの形ではちょっと着られないな、という服に対してリメイク会を実施。これにより、ゴミの減量につながり、自分でつくった愛着感から長く使ってもらうことができる。

【リメイク例】

- ・ロングスカートを膝丈にまつる
- ・パジャマの生地を箸袋などに利用
- ・ゴムの部分をシュシュへ

【開催風景】



会場は屋内～屋外まで様々

◆目指すは「リサイクルの地産地消」

「服もってけおいてけ市」は、服を地域でリサイクルする仕組みをつくることを目的とした「しこくろプロジェクト」として実施。

このプロジェクトは、四国の大学生が集まるイベント「四国ギャザリング」で企画され

『四国 × cloth (布) × クロス (四国の懸け橋)』

を掛け合わせた造語である。

そのため、「服もってけおいてけ市」は高知県だけでなく、四国各県で開催されており、それぞれの県で衣類の循環が起きている。

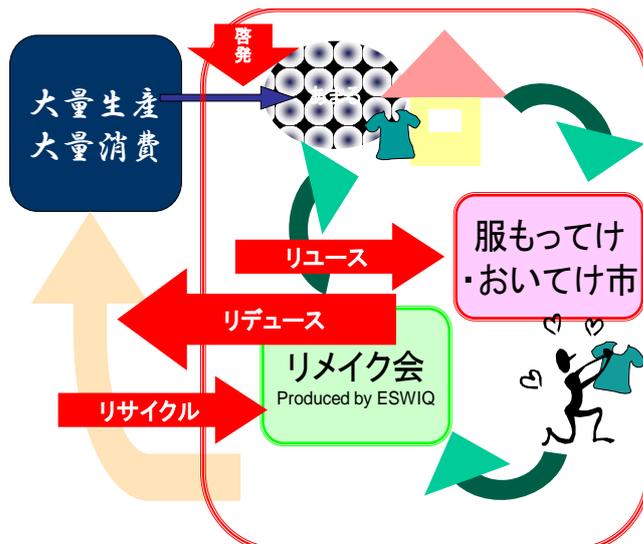
◆取り組みの成果

これまでに四国4県で約20回の市を開催。
来場者約1500人を得て多くの服を循環させることができた。

■今後の展望

県内の様々な団体と協力して開催し、四国では「しこくろプロジェクト」により服を再利用することが当たり前になることを目指していきます！

【しこくろプロジェクトの仕組み】



服の3R 達成を目指す



こんなドレスが循環すること

(平成 21 年 10 月現在)